2011 秋 SINCE 1983

NETWORK TERRA VOL.144

テラコンソーシアム版

■「はばたけ未来へ！！」

夢の学校も土ようタマテ箱として開校以来７年。日々、試行錯誤しながら子ども達と共に歩んでいます。常に「夢の学校のやるべきこと」「創始者古賀武夫の想いは」を問いながら…
「志と品格」を備えた人類社会に貢献できる人格者を育てることなのだと。
子ども達は建学の精神である五本の柱（日本、地球市民、武道・芸術、自然、語学）を基本にいろいろな方々に関わって頂きながら日々過ごしています。子ども達はそれに答えてくれているかのように自分達の花を咲かせる蓄えを準備しているようです。この号ではその子ども達の成長の歩みを取り上げました。いろいろ体験する中、三人の子どもが夏休みを利用し新聞社の「豆記者」として取材、執筆。ここでは、編集後記をお届けします。今後、夢の学校の子ども達がこの紙面を自分達の手でつくりあげていく事を願いながら…

夢の学校をつくる会　吉村　薫

＜地元新聞の豆記者を体験して＞

私は、新聞の「豆記者」の話を先生から聞きとても興味深かったのでやってみようと思いました。題名を「アロマと環境」と言うテーマで、取り組みました。資料は以前、各学校でアンケートをとっていたのでそれを生かしました。また、アロマについても夢の学校で学んでいるのでテーマは簡単に決まりました。しかし、文章や表にしてみんなにわかるようにするのはけっこうむずかしく、なんども書き直しをしながらやっと締切りぎりぎりにできあがりました。できあがった時はおおきなやりがいを感じました。（古賀　日和）

豆記者をやってみて、いろいろな発見がありました。取材の仕方では聞くことはできたけど、文章にまとめることが大変でした。記事ができあがった後、記事に間違いがないか何度も見直しました。見直しをしないと読む人に間違いを教えてしまうからです。これを新聞のことばで「校閲　こうえつ」と呼びます。このことばをぼくは初めて知りました。９月１日新聞がいよいよ発行されました。学校の友達が「新聞に載っていたね。」と言ってくれてうれしかったです。それからどんどん言われるようになって有名人みたいになっていました。もともと作文が苦手だったので豆記者をやめようと思いました。でもあきらめずになんども書き直しをして締切り前に完成させました。この達成感を作文だけじゃなく他のことにも役立てていきたいです。（中谷　仁）

ぼくは、夏休み豆記者になりました。やってよかったことは文章を書く力がつくことです。
また、自分の調べたことを人に伝えるところがおもしろかったです。でも伝えることの難しさもありました。取材した方の気持ちをいれながら短い文章で正しく伝えなければならないからです。この夏休みは本物の記者になったみたいでいろいろなことを調べ、知らなかったこと、人に出会えて楽しかったです。いろいろなことが身につく「豆記者」にまた来年挑戦したいです。（仁比　渉太）

CONTENTS■2011秋

古賀武夫先生の言葉を辿る
敬天愛人　ーー隅より、世を照らさんー　Vol.6
『新会長　地球市民の会を語る』
大野　博之　2

■地球市民の会
和顔愛語　佐藤　昭二　3
タイ便り～タイ訪問プログラム同行日記～　4～5
新かちがらす～日韓青少年交流～　6～7
ミャンマー通信　8～9
植田寛理事　ご逝去／追悼文
チャリティーショップ『ばーん・たわん』　10
2011夏　事務局　オフステージ・ストーリー
協力者一覧　11

■夢の学校をつくる会
夢タマ新聞　12
2011夏タマ・ちびっ子夏タマ　13

■和道流古賀道場
道場通信　14

■古賀英語道場
英語的思考のススメ Vol.6　15

■共同執筆
10～１月のお知らせ　16

世界の平和と親善　地域社会の向上発展

古賀武夫先生の言葉を辿る

敬天愛人

―一隅より、世を照らさん―

Vol.6

『新会長　地球市民の会を語る』

大野　博之

前号に引き続き「古賀武夫ブックレット　第三号『敬天愛人―一隅より、世を照らさん―　』」から、古賀先生の一九九三年（平成五年）の言葉を辿ります。三回シリーズの第二回目です。

五月十六日の地球市民の会定期会員総会で、古賀先生は第二代小原嘉文会長から会長を引継ぎ、第三代目地球市民の会会長に就任しました。設立十周年でもありました。そのため、この年の夏ごろは、新会長としての地球市民の会とは何か、といった本質的な文章がたくさん書かれています。

地球市民の会の使命

「端的に言えば、『本当の豊かさ』＝『生きてて良かった！と、おなかのそこから大声で叫べる毎日』を実現していくこと」だと書いています。私たちが出会ったタイの農村の経済的に貧しい集落の中に、現代文明の象徴である「心の贅肉」つまり、人を劣悪にする過度の欲望と『我善し主義』と相反する価値を見出し、そこに「人、村、自然、精霊との一体感から生じる『安心（あんじん）』（仏教用語で恐怖や不安から解放され、心安んじて生きていける境地をいいます。）がある」というのです。このような社会を作っていくことが、地球市民の会の使命だと古賀先生は考えていました。

タイ病の原因

「なぜ、タイ病が発生するのか。簡単に言えば、まやかしでない、本当の人の生きざまがタイの田舎、そして、私たちが出会うタイの農村部の人々のなかにあるからである。それは、一言で言えば、霊性（精神性）と出会えると云うことだろう。」と原因を究明しています。先進国である日本に住む私たちは、目に見えない世界を現実だと考え、目に見えないものだけを現実なものだと捉える傾向が強まったといえます。目に見えないものというのは「霊性」です。そして、一昔前ならば日本人には見ることができた、目に見えないものが、見えなくなってきてしまいました。それは、たとえば「お陰様の気持ち」「有り難いの気持ち」「お互い様の気持ち」「他人様のための気持ち」が、「効率」「便利」「豊富」「我善」によって信じられなくなってきたということです。言い換えれば、昔は説明しなくてもわかっていた大切なものを、説明しなければわからなくなってしまった、または説明してもわからなくなってしまったということではないでしょうか。そんなどこかに置き忘れてしまった「霊性」、心の奥底で埃まみれになっていた大切なもの、に改めて気付き、心の安堵感を取り戻すことが「タイ病」の原因だと言いたかったのではないでしょうか。プー村のお坊さんプラアチャーンの発した言葉「持てるもの、持たざるものがあることは世の常です。しかし、持てるものが持たざるものを思い遣るのが仏の道です」に涙する人はすでにタイ病患者だとおっしゃっています。

註　タイ病…タイの農村部に心を奪われ、タイの人々のために何かをしたいという思いがどうしようもない状態になること。それを実行する地球市民の会の会員の方々を「タイ病患者」といいます。

荒野に呆然と立ち尽くす古賀先生

第七回地球ユースサミットで九州の中高生を率いてタイの北部のティセ村を訪問していたときのことです。帰りの飛行機の時間に合わせ村から船着場へ向かう途中、川を横切らなくてはなりませんでした。折りしも南国特有の雷雨が突然起きました。川の水量が膝上まで来ています。しかし、この川を渡らなければ飛行機に乗り遅れるということで、それほど大きくない川を渡ることにしました。川は思ったよりも流れが激しく、大人である古賀先生も簡単に歩ける強さではありませんでした。まさにそのとき、引率していた中学生の女子が足を取られ激流に流されてしまいました。あっという間に流されてしまい、このままでは彼女は死んでしまうことは間違いありません。古賀先生が「あっ」と思った瞬間に、同行していたラフ族の若者が飛び魚のごとく川の上をすべるように走ってゆき、彼女を救出しました。そのときとっさに動けなかった自分に古賀先生はショックを受けます。

「教育、偉そうな哲学、見かけだけの雄弁、そんなものにどれだけの価値があるというのだ。女の子一人助けられないではないか！生きるということは、大自然とひとつに溶け込んでいるということだ」雨に打たれながら、濁流の流れる音、打ちつける雨の音、そして一行のすすり泣く声しか聞こえぬ中で、一軒の家も人影も見えぬ荒野を前にして、古賀先生は呆然と立ちすくんでいました。

地球市民意識

「難しい理屈は要りません。人から受けた恩は返す。困った人がいればそれが誰であろうと、自分の家族や友達のように助ける。相手の立場に立った貢献活動をすること。これらを当たり前に出来るのが『地球市民意識』なのです。」

和道流空手道大塚博紀初代最高師範語録
～地球市民の会の理念の始まり～

「武道は、天地人の理想に和した大自然の理を表現した和の形である。人間は個人ではこの世に存在し得ない。社会そのものが幸福でなければ個人の真の幸福はありえない。真に己を愛するならば、社会を愛し、人類を愛さねばならない。武道の修行は愛より発する敬の表現である礼を持ってなすことを第一とする。武の究極の目的は平和と幸福をもたらすにある。」

古賀先生が終生修行をされた和道流の教えの中に、地球市民の会が求めるものが散りばめられています。

（以下続く）

和顔愛語

佐藤昭二

名前が付くと言う事は

私の周りには沢山の人がいる、沢山のものが有る。
そしてその全てに名前が付いている。
名前の無いものは無い。かつて昭和天皇は「雑草と云う草は無い、この世の全てに名前が有る」と言われた。名前が付くという事は働き（役割）を意味する事である。私には、天皇陛下は私達が名も知らない小さな草花においても一つひとつの働き（役割）が有ると申された様に思える。

「名前が働き（役割）を意味する」これは大変重い意味を持っている。子供が生まれた時「命名」と書き、その下に子供の名前を書いて氏神様に報告する。「この子供を命持ち（みこともち）として世のため人のためにふさわしくお使い下さい…」と云う意味である。命名とは、子どものこの世での役割を天に求める儀式なのである。ところが、その本質を現在の人はどうやら忘れてしまっているようだ。それは、「言葉」に対する姿勢で見て取れる。残念ながら今の社会はこの言葉が大変乱れている。言葉が乱れると言う事は必ず形に現れて来る。社会が乱れるということだ。

過去に我が子に「悪魔」と名前を付けようとした親が居た。役所の受付係の機転で事無きを得た様に記憶して居る。この様な行いをする人の心の奥に潜むものは、「子どもは自分の所有物であり、所有者の私がどのように扱おうと構わない」という姿勢である。このとき、子どもは人間では無く、一個の“物”として扱われている。天から授かり、預かる子どもをそのように考えるとき、「天」への畏敬の念が霧散していることになる。そこには「世のため人のため」という意識も無い、目先の都合、不都合で動いている人間の姿が見えて来る。

悲しいかなこの現象は我が子に名前を付けようとする親だけの問題ではない。政治の世界にも、官僚の世界にも、財界の世界にも見えている。肩書きが付き、呼び名が変わって来る時、人間の働き（役割）も変わって来るのであるが、今の社会は肩書きが付いて、呼び名が変わって来てもそれに準じた働き（役割）と責任を取る行為が行われていない。「言葉の本質」を大事にしていないのだ。聞こえてくるのは常に新聞やテレビを賑わしている弁解の声だけである。

しかし、これは人ごとではない。私達一般家庭においても同じ事が言える。“夫”と名前が付いた時、“父”と名前が付いた時、“妻”と名前が付いた時、そして“母”と名前が付いた時、それぞれの働き（役割）が変わり、また増え、それに準じた責任が付いてくるのである。言葉として名前が付くとき、天から働き（役割）と責任を与えられること、これは正に法則である。しかして、親がこの法則から逃げた時、または気付かずに無視した場合、往々にして敏感に子どもに察知され、子どもの精神が不安定な状態になる。時に子どもが破綻してしまう例も決して少なくはない。

私達は名前と言葉と行動は一体である事を知らねばならない。

日本は「言霊の幸はふ国」と「万葉集」の時代から言われている。私たちが日本人であるならば言葉を大事に使っていきたいものだ。そしてそれは、日本人にとどまらず、世界中の人々にも重要なことである。

なぜならば聖書に曰く、「はじめに言葉ありき、言葉は神なり、言葉は全てなり…」、

毎年世界で最も売れている書籍にもそう記されている。

言霊（ことだま）とは…日本では声に出した言葉が現実の事象に対して何らかの影響を与えると信じられ、良い言葉を発すると良い事が起こり、不吉な言葉を発すると凶事が起こるとされた。ここから、日本は言霊の力によって幸せがもたらされる国「言霊の幸はふ国」とされた。言霊思想は万物に神が宿るという信仰だけではなく、心の存り様をも示す道徳倫理的な日本人の規範でもあった。

タイ便り
～タイ訪問プログラム同行日記～

この夏、タイ地球市民奨学金が支給されているタイ東北部ウドンタニ県・クーキャオ校が、日本人の訪問客で賑わった。日本青年会議所九州地区協議会（以下、九州ＪＡＹＣＥＥ）による『九州グローバルトレーニングスクール』（以下、ＧＴＳプログラム）が開催され、暑い日差しが照りつけるなか、子ども達と笑顔を交わし、人々の生き方に触れた。参加者は一般公募もされ、九州全土から13歳～40歳までの53名が集まった。

ＧＴＳプログラムは、九州の人材育成の一環として「異なる価値観に触れ、自身の価値観の基準を知ること」「自身を認識し、確固たる考えを持って自立すること」「次代に向けて多角的な視野を持ち、アジアとの共生を考え相互の発展に寄与すること」を目的とした事業である。13年前に、同地域で九州JAYCEEがGTSプログラムを実施した縁があり、本年の開催に繋がった。

みっかりタイ美人！？

華麗なダンスでむかえてくれた

ゴザ織りに挑戦！

～訪問行程～

8月24日
　福岡空港で出発式
　バンコク市街地に宿泊、九州男児育成プログラム

8月25日
　国内線でウドンタニへ
　クーキャオ校に到着、大歓迎を受ける
　歓迎式、タイ文化体験で学生や先生と交流
　ホームステイ、タイの生活をまるごと体験★

8月26日
　登校、みんなでラジオ体操
　食文化交流　うどんと手巻き寿司＆タイの焼きそばパッタイ
　お別れの式　旅の安全と幸せを願って、手首に糸を巻きあった

8月27日
　バスでラオスへ
　タイとラオスの国境で記念撮影、国境を実感
　ウドンタニへ戻り、バンコクへ

8月28日
　福岡で解散式

～プログラムのひとコマ～

空手を披露

今回の参加者には、古賀空手道場出身の若者2人が含まれていた。クーキャオ校で、空手を披露。人が溢れる体育館がし～んとなり、みんなが見入っていた。小さい頃から鍛えられた、つよくやさしい心が演技にこめられていた。

ホームステイ

２人１組で、子ども達の家で一夜を過ごした。床にござを敷いてご飯を食べ、瓶の水で水浴びをし、蚊帳のなかで眠りにつき、朝は托鉢をし…と、タイの生活を体験した。１日目対面した時は、緊張した面持ちだったが、翌日、一緒に登校してくる姿は本当の家族のようだった。

大モテの日本人！？

女の子や女性の先生達から、次々に『一緒に写真撮ってください』と声かけられる美男子達。撮影会が何度も行われていた。大盛り上がりのタイの方々…何を話しているか分からないけど、芸能人を見るかのような興奮ぶり。『元気が欲しい時は、タイに行こう！』と話した美男子達でした。

お鍋をもってきたお兄さん

『鍋持ってきたんだよ』とクーキャオ校に向かう車中で、お兄さん。ホームステイ先で、レトルトの日本食をあれこれ温めて出したらしい。デザートとして持っていった栗の甘露煮に感動されたそうだ。鍋を持ってきたお兄さんの姿に温かさや抜群の準備の良さは感じられたが、鍋まで持ってくるとは驚きだった…。

子ども達からのSOS

ホームステイをした夜、Tin先生の携帯は鳴りっぱなしだった。『先生、お風呂が通じなくて…日本語で何と言うのですか～？』『先生、お客さんが起きないんですけど、どうすれ良いですか～？』などなど。きっと日本の参加者も言いたい事が伝えきれず、悔しさを覚えたようだ。でも、筆談、笑顔、ジェスチャー等で努力したことが、心に強く残るだろう。

お別れの時

イサーン地方特有のお別れの儀式。みんなで仏塔を中心に円になり、1本の糸をみんなで持ち、ひとつに繋がった。お坊さんによるお祈りの後、旅の安全や幸せを願って、お互いの手首に白い糸を巻きあった。最後は、ひとりひとりと握手して抱き合って、別れを惜しんだ。涙をぽろぽろと流す人も…。

～参加者の感想～

皆さんから寄せられた感想の一部を紹介いたします。
原文は、ホームページで紹介させて頂いておりますので、ぜひご覧下さい♪

私は、今回の研修事業担当委員長として、地球市民の会様のサポートのもとタイ・クーキャオ地区とのご縁を頂き、昨年の１１月から今年の８月にかけて、４度に渡り現地を訪問させて頂く機会を得ました。

現地での研修では、異なる環境や価値観、物質的な不便さに多くの参加者が戸惑いました。しかし、現地の皆さんの温かい心や子供たちの無邪気な笑顔に出会い、人と人とが支えあう優しさ溢れる地域の姿にふれ、日本人が無くしてしまった何かに気づき、豊かさの価値の本質を見つけることが出来たのではないかと確信しています。しかしながら一方では、十分に整っているとは言えない生活環境や教育環境、満足な収入を得る手段も少なく、子供たちが労働に携わらなければならない現状を目の当たりにして、言葉では言い表せないもどかしさや自身の無力さを痛感させられたはずです。今回の研修に参加して頂いた方々が、これからの実生活において自己の幸せだけでなく、国際的に解決すべき課題にも対峙してアクションを起こして頂けるものと信じています。

恥ずかしながら、私自身もこれまで海外や国際貢献への関心が薄く、自己の幸せばかりに目を向けていたような気がします。しかし、今回現地との関わりを持てたことを機に、地球に暮らす一員として人と人とのつながりの大切さを知り、出来ることを何か一つでも行動として表そうと強く決意しました。世界の全ての方々が幸せに暮らせるように、明るい豊かな社会実現に向けてこれからも努力したいと思います。皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。

桑原　賢太郎

（社団法人日本青年会議所　九州地区協議会　九州JAYCEEスピリッツ醸成委員会　委員長）

古賀　友大
（古賀英語･空手道場ＯＢ　26歳）

親切にされたことに対してのお礼一つ、相手に対する気遣い一つも伝えられないもどかしい状況で言葉の壁は厚く、もっと話せたらとも思いましたが、こんなにも伝えたいという気持ちになることは共通の言葉がないからこそであり、伝わった時の喜びは何事にも変えがたいものだったのも言葉が通じないからこそでした。知るために試行錯誤した時間は互いの仲を深めるには濃密なものだったと感じます。

発展途上国といっても近代化は確実に進んでいるように感じました。今現在のタイに古きよき日本の姿を見たように感じ嬉しく思った反面で、近代化して物があふれることで些細なことや当たり前のことに幸せを感じづらくなり、生活が豊かになって心が貧しくなった今の日本人の様にこの先なってしまわないで欲しいと、杞憂かもしれませんが学校の生徒さんたちの笑顔を思い返すと考えてしまいます。今回の経験をただのいい思い出にするのではなく、今後の自分の人生の向上に繋げていけるようにしていきます。

私がホームステイした家では15歳と10歳の姉妹が住み、両親は出稼ぎで不在でした。家ではドラム缶に溜めてある水で体を洗い、トイレでは紙を使わず水で洗い流します。夕食は隣に住む祖父母の家で一緒に食べ、夜は蚊帳の中で眠りました。生活環境を見て、日本人からすると物がなく不便を感じ、「貧しい」と映るかもしれません。しかし、家族や人との絆、心のあり方はタイの人々の方が「豊か」で、生きる力強さに溢れているのではないかと感じました。両親はいないけれど、残った家族で支え合い、貧しく物はなくても、一生懸命に生きているのが伝わってきます。タイにいるとまだ数日しか経っていないのに、ゆっくりと時間が流れているように感じ、すでに何日もいるような感覚を持つことがありました。タイではみんな１日１日を大切に、大事に生きているのではないか。だからこそ、そのような感覚を得たのだと思います。

子どもたちの笑顔が忘れられません。みんな心からの笑顔をしているのです。きっと子どもたちは内側、心がきれいで豊かなのだ、そんな心が作り出す笑顔なのだと実感しました。外側の豊かさは物が決めても、内面の豊かさを決めるのは物や富じゃないのだと、生き生きとキラキラとした目をしている子どもたちから学び気付かされました。日本にいると、物があることが当たり前になっていて、気付くことが難しかったと思います。今回、短い期間の訪問でしたが、実際に体験してみて感じることの大切さが分かりました。また、私自身これからの自分の生き方、物事に対する考え方について考えさせられる機会になりました。そして今後も、学校の子どもたちとの交流を続けていきたいと思っています。

千々和　美香
一般参加者
小城市在住　22歳

山下　泰司朗

ホームステイ先の生徒は、とても優しくて明るい子だったです。家に着くなり玄関に「WELCOME」という文字のデコレーションがあり、おもてなしの心に驚かされました。夜ご飯もとても豪華だし、寝るときにはわざわざ蚊帳を出してくれたり、貴族にでもなった気分でした(笑) ただ、出発前から懸念していたお風呂とトイレ…日本のように蛇口を捻って水やお湯を出すのではなく、雨水を貯めた貯槽から水をすくって使ったり、紙なしでトイレを済ませたりするのです。いざその場となると、躊躇せずできました。

楽しい時間は過ぎるのが早いものであっという間にお別れとなりました。みんなに腕に巻いてもらったお守りは今でも大切に保管しています。またいつかウドンタニを訪れ、彼らと再会することを夢見ています。

（熊本大学１年　古賀空手･英語道場ＯＢ）

～同行メモ～

タイの人々のもてなしの心、素朴さ、力強さ、地域や家族のつながり…多くのこと に感激した日本からの参加者達。日本からの大勢の来訪に戸惑いを感じながらも、仲良くなりたい、タイのことを知って欲しいとキラキラとした笑顔で迎え入れてくれたタイの子ども達、先生方、地域の人々。みんなの心のなかに、暑い思い出が残った訪問となったと願っています。

～クーキャオ校教師　Tin先生より～

多くの日本の方々の訪問、本当に嬉しく感じました。もっともっと準備ができれば良かったなと振り返りました。

プログラム終了後、『私の家にも日本人に来て欲しかった』『もっと長く、ステイして欲しかった』と子ども達。もっともっと日本人のこと、言語、文化など知りたかったと話しました。そして、日本の皆さんにも、もっともっとタイのことを知って欲しかったです。でも、言葉の壁は大きかったですね。

特に先生達は、今回のプログラムに向けての準備がとても大変でしたが、日本の方々、子ども達の笑顔を見た時、頑張って良かったと、とても幸せな気持ちになりました。

明るく元気なTin先生（右）

新かちがらす
～日韓青少年交流～

in 富士町 大串集落

中山間地の元気再生・・・・・プロジェクト報告

何のためにやるのか？

日韓両国には共通して、中山間地の過疎問題があります。特に高齢化、若者の田舎離れによる人口減少の進行が目立ってきています。それにより地域の機能低下が顕在化されつつあります。そこで、佐賀市富士町の中山間地に日韓の大学生が入り、地域の方々と一緒に活動を通し中山間地の問題を考え、話し合いを行います。地域の人たちにとっても日韓大学生からの視点が、地域内の資源の再認識・再発見につながります。また、大学生はお互いの国に共通の問題があることに気づくことができます。

昨年に引き続き今年も佐賀市富士町大串集落にお世話になりました。今年も参加者は地域の方々と触れ合い田舎の魅力・人の温かさに気づくことができました。

実施期間
2011年８月21日（日）～28日（日）

参加者
日本の大学生11名　韓国の大学生９名

＊行程表＊

こんなことやりました！

8月21日（日）
・ウェルカムパーティー

8月22日（月）
・富士町嘉瀬川ダム見学
佐賀大学李先生による講演会
→中山間地での国際交流の意義について学びました。

8月23日（火）
・山口副会長によるワークショップを行いました。

日韓両国が持っている問題について考え、それぞれグループに別れて話し合いを行いました。参加者は日韓で共通の問題を知ると共に一つの問題は様々な問題と繋がっていることに気づきました。中には、一つの問題解決に真剣に取り組むことで他の問題解決にもつながるのではないかという感想もありました。

・ホームステイ（1日目）

8月24日（水）
・地元の保育園と交流（そうめん流し）
・ホームステイ（2日目）

8月25日（木）
・そば打ち体験
・ハッピーストック「雑巾プロジェクト」

→西村尚子理事主催の女性の視点で、被災地の女性や子どもへの支援活動を4月から展開しています。生活に必要な雑巾を被災地の人々に復興への祈りを込めて手縫いで雑巾を作り、メッセージを書きこんで送る企画です。参加者も1枚1枚手縫いで雑巾を完成させました。

涙…涙の別れでした…。

8月26日（金）
・21世紀県民の森で夢の学校をつくる会の子供たちと自然体験交流
・地域の方の前で「地域発見」発表会
期間中、地域の人たちにインタビューをし、自分たちで地域を調べてきたことをグループに分かれ地域の人たちの前で発表しました。

8月27日（土）
・カヌー体験
・富士町の祭りに参加
・さよならパーティー

8月28日（日）
・佐賀市内で買い物

大串ってこんなにいい所ですよ！

今年の「新かちがらす」を振り返って…

大串集落の江口自治会長とホストファミリーの森直子さん、日本人大学生 松島拓さん、韓国人大学生キムジンウクさんにに今回の新かちがらすの感想をききました。

佐賀市富士町大串集落江口自治会長

２年目になる事業ですが、今年も非常に楽しく参加させてもらいました。韓国の大学生は礼儀正しく、大串のことを学ぼうとしている姿勢がよかった。若い人たちが来てくれることはこの集落にとっても地域の活性化につながると思う。昨年参加した学生たちも来てくれた。中には、大串が好きになったので来たという大学生もいて非常に嬉しかった。今後も続けて欲しいと思う。

森直子さん（ホストファミリー）

昨年に引き続きホストファミリーをさせてもらいましたが、今年も非常に礼儀正しい大学生ばかりでした。積極的にお手伝いなどもしてくれました。私の子どもと年齢も近かったため子どもの友達が遊びにきたという感覚でした。ホームステイ期間中に土曜日か日曜日が入っていたら富士町を案内したかったと思いました。

東北の復興を願ってます！

松島　拓（日本人大学生参加者）

今回のプログラムでは20名近い日韓の学生との交流を始め、ホームステイや様々なイベントを通して、大串のコミュニティに入り多くの地元の方々と深く関われたことは特に印象に残っています。ワークショップや講演会を通し、中山間地域の問題について深く学べたり、日韓問題について韓国の学生と議論できたりしたのも良い機会となりました。楽しいだけでなく学びの多い1週間となりました。今後も今回出会った学生や大串の方々と交流を続けられればと思っています。

ホストファミリーと記念撮影（左:松島拓さん）

キムジンウク（韓国人大学生参加者）

今回のプログラムでは、佐賀市大串集落で８日間を一緒に生活しながらたくさんの体験ができました。地域の人たちと一緒にできるイベントもあり、ホームステイをしながら日本人の生活文化を経験できる機会でした。ただのお客さんで家庭に行くのではなく、一緒にご飯を食べたり寝たり、そして出かけるホストのお父さんとお母さんの見送りをしたときは一つの家族になった気分でした。個人的は日本のお風呂を利用するときと食文化について理解できたのはよかったです。

また、今回のワークショップなどを通して韓日には共通して都市化と高齢化の問題があると知りました。両国がほんとうに似ているところが多いと思い、日本のことをよく分かる機会になりました。漠然な日本へのイメージではなく、もっと親しくて近くなったと感じました。それと今回参加して、たくさんの人と出会えることができました。韓国の学生たち以外にも、日本人の友達とホストファミリーとは今でも連絡をとっています。年に一度だけどまた機会があれば何度も参加したいと思います。

右：キムジンウクさん

ミャンマー通信

マジーピン村・パリリン村間の道路完成!!

ネットワークテラ春号でお知らせしていた「外務省日本NGO無償資金協力事業」で建設中だった道路が6月無事完成しました！

このマジーピン村、パリリン村間の道は、この辺では州都タウンジーに行く唯一の道です。この道は舗装されておらず、通行が困難なことから、最も状態が悪くなる雨季には農産物を運ぼうにも運搬途中に痛んでしまったり、運搬するトラックが通行できず、売り物になりませんでした。地域の８～９割にのぼる農民にとって大きな痛手です。

また、マジーピン村では、重傷・重病患者が出た際や、妊婦の異常分娩の際は、２マイル離れた病院に連れていかなければなりませんが、道の状態が非常に悪く、通行が困難なため、搬送中に亡くなった方が2004年から2009年までの５年間で104名にのぼりました。子どもの通学にも大きな問題があり、でこぼこの道は雨季にはとても通れる状況ではなく、道が悪いせいで登校できない学童もおり、退学する子どもの65%が通学の困難さを理由として挙げていました。

6.4マイルの道路が完成した今、この地域からタウンジーに行くバスや農産物の運搬トラックの便数も増え、農民達は以前より農産物を出荷しやすくなり、以前より1.5倍雨季の収入が上がったとの嬉しい声が。子どもの通学や病人の搬送も改善される見込みです。

インフラ整備が、地域の経済発展や福祉の向上に貢献することができることを実感することができました。

７月13日には、国境省、日本大使館の方も参加しての落成式を行いました。

ナーリー村保育園支援２年目!!

佐賀市大和にある「保育園・ひなた村自然塾」（藤崎博喜園長）様にご支援いただき、昨年よりナーリー村の保育園を建設中です！この事業は３ヵ年計画になっています。「村が保育園を建てるとしたら、毎年少しずつ村人から集めたお金で少しずつ少しずつ建設を進める」という話を聞いたひなた村の藤崎園長が、自分たちも一度に大きな支援はできないけど、少しずつなら応援できる！ということで、ナーリー村と同じペースで力を合わせて保育園を建てよう！というプロジェクトです。

今回８月佐賀大学の学生さんと一緒に、ひなた村の岩田先生が視察と２年目の支援金の贈呈のためにナーリー村を訪問されました。

「ナーリー村保育園で、ぜひ一緒に保育をしたい！」という岩田さんの提案で、子ども達とマラカスづくりをしました。

来年はいよいよ園舎の完成！落成式ツアーを企画しようとたくらんでおります。ミャンマーの子どもの輝く瞳に会いに、皆さんも行きませんか？

おうちに眠っているデジカメありませんか？？

最近ミャンマー事務所で要望の高まっているデジカメ。TPAの現地スタッフはめきめき成長をみせており、センターの運営はもちろん、自分達だけで研修を行ったり、調査に行くことができるようになりました。しかし、その際に、記録を残したり、写真を撮っておいてほしいことがしばしば…。各地域のスタッフにデジカメを持たせられれば…。ということで、皆様のおうちに使わなくなってしまったデジカメがあれば、ぜひTPAミャンマー事務所への寄付をお願いいたします。

タンテ農業堰（せき）整備事業がスタート!!

この度、外務省日本NGO連携無償資金協力で贈与契約を無事締結し、「南シャン州タンテ地域における農業環境整備事業」を実施できることになりました。

インレー湖の北側に位置するタンテ地域。この地域には、以前から農業用の堰があります。その堰から約275世帯の農家が水を引いて農業を行っています。しかし、この堰は壊れることも多く、なかなか十分な機能を果たすことができていません。堤の高さも不十分で、水量が堤のキャパを超えてしまい、堤を超えた水が周辺の田畑を水浸しにすることも…。せっかく作った農作物は全滅で、収入になりません。また、水路が整備されておらず、水量が十分にあっても、遠くの田畑に水がいきわたらなかったり…。

村はこの堰の修繕に毎年20万円ほど費やしており、村の発展を妨げています。年収が６～７万の村の人にとっては大きな出費。

また、上記のように農業による収入が不安定なことから、この地域では、家が貧しくて学校に通えない子どもや、栄養不良の子どもの存在が問題になっています。

農業収入が十分でないため、タイに出稼ぎに出る若者も増加傾向にあります。

「この農業用の灌漑を整備できれば、乾季も農業ができ、村の生活もよくなるのに…」

そんな思いを聞いたTPAと国境省、そして村の協力で、今回この事業を行うことにしました。

事業内容は、

①農業堰の整備　②循環型農業研修　③維持管理体制づくり

となっており、道路同様、今後も住民達の力で堰の整備、地域の発展を担っていけるようなしくみをつくって完了です。

事業期間は10ヶ月。化学肥料や農薬を多投し、土も悪くなっているので、循環型農業に切り替えることで土壌を改善し、自然にも人にも優しい農法で、持続的に農業で発展できる地域を目指していきます。

農村部は、都市部に比べて貧困のリスクが高いという傾向があります。子どもが学校に行けなくなったり、飢餓に陥るリスクは都市部の1.5～2倍といわれています。

また、こうした農村から出稼ぎに都会に出てしまうところから、真の貧困が始まるとも言われています。

村の人は、水路ができれば、そこからは自分たちの力で今まで水がきていなかった田畑にも水を引く！とやる気に満ちています。

農村の危機を救う、この農業堰プロジェクト。成功させて、また皆さまにご報告しまーす！

ティープー小学校建設事業実施中

今年の教育支援事業の一つに財団法人地球市民財団様より助成をいただき実施しているティープー小学校建設事業があります。

ティープー村は山の上にある小さな村で40世帯が暮らしています。道が悪いために、雨季は4WD車でないと行けず、外の世界から孤立してしまいます。交通の不便さに加え、生徒数が少ないため、今まで校舎の建て替えを希望していたにも関わらず、支援も後回しにされてきました。

本事業は、①ティープー小学校建設と②奨学金基金創出のための共同農園作りの二つからなります。現在のティープー小学校の校舎は竹で作られた小さく粗末な建物で、床は不安定で傾き、雨漏りをする部分もあります。子どもが安心して勉強できる状況ではありません。そのため、村の人たちと協力して、校舎の建て替えをおこないます。また、貧しい子どもも学校に通えるように、共同農園に村民みんなでアボガドを植え、アボガドを売ったお金を奨学金にするという計画です。

６月17日には、循環型農業と木の大切さに関する研修を行い、たくさんの村民が集まってくれました。日本が大震災で大変な中でもティープー小のために支援をしてくださっていることを説明したところ、村人は改めてこの事業のかけがえのなさや、日本の皆さんからいただいた心を感じているようでした。

参加していた子どもに夢をたずねたら、みんな「先生」と答えてくれました。
この子たちの夢をかなえられる環境を一緒につくりあげよう、と村の大人と話をしました。

タンボジ青少年育成センターに蚊帳をいただきました！

先日、佐賀市水ケ江の高松様より、蚊帳を寄付していただきました。

早速８月佐賀大学のアジアフィールドスタディご一行様に運んでいただき、ミャンマーのタンボジセンターに届けました！ありがとうございました☆

左：現地駐在員 鈴木
右：タンボジセンター長 ウ・ミャウィン

植田寛理事　ご逝去

平成６年に理事にご就任いただいて依頼､17年にわたる地球市民の会の経営に参画いただきました。幾度も訪れた会の危機をともに乗り越えることにご助力いただきました。スリランカ事業に関しては事業の立案から携わっていただいておりました。事務局員に対するメンタル面でのサポートにもお心砕きいただいておりました。理事会においても、事務局の負荷を優先的に考えご発言される方でした。あまり自分のことはお話になられなかったですが、ご趣味の長距離ウォーキングで体験したお話は都度都度新しい話題を提供していただき、理事や事務局員を抱腹絶倒に至らしめていただきました。深い寂しさと、心からのご冥福を捧げます。ありがとうございました。

平成23年8月9日没。（大野）

追 悼 文

地球市民の会を代表して故植田寛氏の霊に謹んでお別れの言葉を申し上げます。

平成23年８月11日

植田先生へ

植田先生と地球市民の会との出会いは、メコンクラブ(タイに行った仲間の会)の懇親会に参加されたのがきっかけでしたね。故古賀武夫会長が人間道場として開いた古賀英語道場と空手道場の生徒として通われていた帰りに、おいしい料理と酒があるからと誘われて、それからが個性あふれる変な仲間との交流の始まりでした。「何だかよくわかんねえけど、面白そうな人が一杯いるね」と言って、何の会合だろうかと怪訝そうな顔で入ってこられたのをよく覚えています。

ところが、いつの間にか気付いた時は、タイ、スリランカ、ベトナムなどの活動に深く関わるようになっていましたね。ホームステイの受け入れや、学校にいけない子供たちのための里親制度への協力など積極的でした。特にスリランカ事業にはご尽力いただき、一緒に何度も足を運んでくれましたね。(１)小水力発電所の調査や完成式の時、登れないトラックを押して走った紅茶畑の山道、ジャングルでのヒルとの戦いは忘れません。(２)サンガミッタ女子高校のシショダヤ奨学金贈呈式では、全校生徒の盛大な歓迎式と植田先生の英語での代表スピーチは見事でした。(３)良きカウンターパートナーとしてのニシャンタ氏との出会いもありました。南部のゴール市の海岸で、インド洋の波の音を聞きながら、「これからのスリランカと日本の架け橋になろう」と夜更けまで熱く語り合ったことが昨日のように思い出されます。「俺らのツアーはまともな観光旅行ってしたことないよな。でも、普通の旅行では決して体験できない貴重なものばかりだよな」と、楽しんでいた植田先生。

理事会では、常に相手の立場にたっての貴重な発言が多かったですね。皆の意見が出尽くしたころ、ぽつりぽつりと語られるその一言が深みのある言葉で、我々の気づかない視点にたっての発言で、全員不思議と納得させられました。「俺らは、つい自分たちの都合で勝手に決めているのではないか、もっと子供たちの立場に立って考えるべきではないか」「会員や里親に対するきめの細かい、真心のこもったサービスも必要ではないか」など。

一方、プライベートでは一人歩きのエピソードを、真面目な顔で話されるのが、面白く茶目っ気のある一面もありました。(１)自販機に抱きついて暖をとる方法。(２)植え込みに倒れていた女子高生を助けて、第一発見者で犯人と間違えられたこと。(３)道を尋ねようと急ぎ足で前の女性を追っかけたら、ストーカーと間違えられたこと。(４)リタイヤ組の居場所作りのこと。

お別れが近づいたころ、ケア病棟を毎日訪ねて、見送ることが出来たことは幸せでした。神様が引き寄せてくれたのか、ニシャンタ氏が見舞いに来てくれ直接お別れができたこと。植田先生との楽しかった思い出を語り合えたこと。人生の勝利者とは、一つでも多くの楽しい思い出を作りきった人だそうです。植田先生あなたのことです。最後の言葉は「ありがとう！感謝！あとのことをよろしく頼む。」でした。最後まで、心配りを忘れないやさしい人柄でした。

地球市民の会を代表して、これまでご尽力頂いたことに、心より感謝しお礼を申し上げます。あの世は、楽しいところだそうです。きっと、古賀会長も酒を用意して待っていることでしょう。いってらっしゃい。私たちもすぐそこに行きますから。

地球市民の会　代表　副会長　多良　淳二

チャリティーショップ『ばーん・たわん』　冬物の寄付品、大募集中です！

いつもご寄付を寄せて頂きまして、ありがとうございます。

日に日に涼しくなり、衣替えの季節となりました。チャリティーショップ『ばーん・たわん』の売場も衣替えをいたします。『とっておいたけど、サイズが合わなくなった』『新しく買ったから、必要ないわ』等などの一点がございましたら、ご寄付よろしくお願いいたします。冬の寒さに負けないくらい、売場が、皆さんの温かい想いでぽかぽかにしたいなと思っています。よろしくお願いいたします。

寄付をお願いしている物：冬物の婦人服、子ども服、服飾雑貨（カバン、靴、財布等）でシミ・破損していない物。日本国内で販売し、その売上でタイの子ども達の教育環境改善プロジェクトを実施します。

2011夏 事務局 オフステージ・ストーリー「プチ事務局通信～暑い夏の熱い思い出」

この夏、地球市民の会事務局でも多くの悲喜こもごもの大きなものから小さなものまでドラマが有りました。事務局員ごとにご報告いたします。

●忙しんカチガラス計画

「新かちがらす」の準備がありプライベートで何かしたかな？という感じです。その他にもイベントてんこ盛りでした。

ただ、新かちがらすを終えてみて、やってよかった！と思います。多くの地域の方々にサポートしていただき、今年も参加者たちは感動の涙で最後は終えることができました。地域の方もまさか泣くとは思わなかった！と言われている人もいました。今後も地域の方々と一緒に事業を進めていきたいなと思います。（岩永）

●まだましかもね

今年の夏は非常に暑かった。事務所内にも係わらず度々、頭がボーっとして思考機能がストップ！

吹き出る汗に…塩飴でも舐めようかと考える有様。

しかし…事務所窓越しに見える下水道工事の人達、炎天下の中ヘルメット姿での力仕事は辛い！まだ私たちはいいほうか…と気合を入れ直す日々でした。

やっと９月も下旬になり、これからしばらくは過しやすい環境かとホッと一息の今日この頃でした。（江口）

●恒例のお客様のご訪問！?

夏休みの終わりが近付いた８月末、イタチ親子が地球市民の会の事務所に遊びにきてくれました。ゴソゴソゴソ…凄い悪臭を漂わせながらやって来ました。事務局長は、誰かの体臭かと思ったらしい。。。

イタチ君を捕まえるべく、檻のなかに唐揚げをぶらさげたところ、子どもイタチがパクッ。暑い夏、心に残る来訪者となりました☆

（戸田）

●TPA版サマータイム！

この夏、ＴＰＡでもサマータイムが始まりました。

出勤時刻も退社時刻も同じなんですが、一つだけサマータイムになったもの…それはエアコンをつける時間！事務局では「お昼まではエアコンはつけない」というエコな取り組みが暗黙のもと行われているんですが、もう我慢できない！暑い！という日は「サマータイムなので」ということで11時くらいにエアコンのスイッチをポチっと押してしまいます。省エネを心がける夏ではありましたが、熱中症にも気をつけつつ仕事しなければなりませんね、江口さん☆（藤瀬）

協力者一覧

※2011年６月～９月まで

正　会　員

堤　加奈子
野口　翔平
徳光　清孝
藤瀬　伸恵
戸田　玲子
岩永　清邦
江口　恵美
北原　壽豊
古川　昌宏
牧瀬　弓子
宮地　信文
本村　満江
岩本　かおる
田口　光雄
弥富　雅信
大野　博之
田島　広一
土井　敏弘
中本　正一
西野　伸一郎
西村　尚子
増田　誠司（福岡）
松尾　大輔
南畑　みき
森高　康行（愛媛）
八坂　信雄
山口　晃
山口　久臣
山崎　みね子
吉村　洋祐
古賀　智津子
小園　拓馬
小山　恭子
石井　訓志
豊川　悦郎
村田　麗紅

賛助寄付会員

福井　丈一郎
池田　瑛
㈱岩田組
唐澤　利夫

書き損じハガキ・古切手

㈱平野酸素商会
篠崎
FANTASYプロジェクト　阿南　学
石塚　雅子
宮崎　照子
紀伊　保男
今宿郵便局
横山　眞爲子
成尾　雅貴
倉富　博美
㈱マイホーム建設
㈱フクイ　辻丸由美
三井生命
真如苑
北高通信制
男女参画県民共同課
斉藤
岩田　京子
成尾　雅貴
古賀　智津子

寄　　付

植田　京子
松田　定昭

ミャンマータンボジサポーター

篠原　隆法
西山　峰次

ミャンマー寄付

保育園ひなた村自然塾

クーキャオ高校

青柳　光美
内山　治郎
江頭　泰子
円城寺　久好
大塚　寿美雄
大野　博之
香月　富士雄
加藤　由紀子
北村　尚道
栗林　正則
古賀　大之
小松　重輝
佐々木　佳寿子
千住　友二
西山　峰次
納江　幸利
野内　直穂美
祓川　清美
松枝　和代
松林　久美子
的野　直喜
森永　勝馬
吉井　英隆

クーキャオ中学校

愛野　良治
阿部　博
阿部　礼子
池田　サチ子
板垣　道代
井上　弘子
″東筑紫学園高校
インターアクトクラブ2700
地区指導者講習会″
内山　治郎
浦郷　めぐみ
江頭　泰子
江口　恵美
江口　典子
榎田　智子
榎田　智津子
榎田　奈保子
円城寺　久好
大野　圭子
岡　大雅
貝通丸　直子
木下　博和
倉富　博美
高祖　しずの
古賀　由紀子
佐藤　正敏
佐藤　基子
白井　憲一
杉光　省吾
千住　泉
田久保　克明
徳永　千恵
中島　文子
中村　志津香
南里　玲子
西村　和洋
西山　峰次
納江　幸利
野内　直穂美
出光　智美
馬場　佐和子
馬場　龍之介
原田　典子
樋口　啓子
彌富　和枝
平川　恵里
平嶋　トキ子
平野　京子
平野　朋子
古野　眞美
別頭　照代
寶泉　正美
本弓　康澄
前田　綾子
眞崎　健次郎
真子　ハマ代
的野　直喜
宮崎　照子
宮地　信文
武藤　鼓
森永　勝馬
山口　則子
山下　雄司
吉田　じゅんこ
佐藤　邦彦
深川　明子
寶泉　正美
篠原　隆法

ボーゲウ校

愛野　良治
池田　サチ子
石川　祥子
稲葉　田鶴子
江口　はる美
亀井　一恵
田中　亜矢
寺戸　純子
戸田　玲子
西村　賢二
西村　正信
西山　峰次
納江　幸利
平岩　佳名子
福井　丈一郎
前田　勝美
松尾　千秋
松瀬　直美
松林　久美子
宮島　町子
森池　節子
吉井　学
吉田　史郎
吉田　じゅん子
吉田　純子

ぱーん・たわん

岡村　由美子
㈱損保ジャパン佐賀コールセンター
㈱損保ジャパン中野コールセンター
真子　ハマ代
松林　久美子
馬場　佐和子

その他

新ヶ江　一男　（カメラ）
馬場　佐和子（カーテン）

支援金寄付(元気を送ろうキャンペーン)

内田　信子
アバンセ館内募金
アバンセバザー
木原慶吾チャリティコンサート
鳥栖市民活動センター
みどりや茶輔
劇団Ziiシアター
明治タクシー
佐賀県CSO推進機構
佐賀市情報ビジネス　江島光代
子育てサークル『ぽっかぽか』
タイボーゲウ校
タイクーキャオ校
小城中央公民館本町区
子どもクラブ募金
中嶋　直樹
神埼ロータリークラブ
市民活動プラザ募金
エクレールお菓子放浪記
多久市実行委員会
株式会社クリーンミニ
中島　康子
つばさの会グループ
小楠　フミ

※順不同で掲載させていただいております。
※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

夢タマ新聞 夏休み号

H23・8

子ども達が夏休み、夢タマで体験したことを記事にして新聞作りに挑戦!!
昨年に引き続き夏休みの様子を「夏休み夢タマ新聞」としてお届けしますが、今回は子ども達の手作りです。

7月26日 車椅子を体験して

佐賀大学医学部に車椅子の研究をされている先生にお話を聞いた。その後、実際に乗って体験。
初めは動くのがおもしろくて、車椅子がいいなと思った。
でも、話を聞くとおふろやトイレなどが不自由になることがわかった。おふろやトイレがふつうにできることがあたり前だと思っていたけどあたり前ではないこともわかった。だけど「やっぱりふつうに歩いたり、飛んだり、走ったりできるほうがいいな」と思った。

五七五
くるまいす
あんしんしてね
だいじょうぶ

夢タマ東北の人にアロマをとどけた 8月5日

夢タマ東北の人とアロマに親しむ。
アロマのほかにも、ハーブティーやかみしばい。その間フットマッサージをしました。
マッサージをしてもらった東北の人は「すごくぽかぽかしてきた」とか「元気がでた」とか言われました。

五七五
アロマはね
元気をつくる
まほうだよ

8月17日 オーケストラの楽器に…

佐賀文化会館で「オーケストラの楽器にふれよう」というワークショップがありました。
今まで見たこともない、聞いたこともない楽器にふれることができました。フルートを吹く前にジュースのビンを使って音を出す練習をしました。なかなか音がでません。なんども吹くうちに頭がくらくらしてきました。オーケストラの人はすごいなと思いました。

8月26日 日韓交流…韓国の人と富士町で交流

カンコクのおにいさん、おねえさんとふじ町で水でっぽうをつくったりそうめんながしをしてこうりゅうしました。名前のところをみたらカンコクの人と日本の人がいました。どうちがうのかなと思いました。いっしょにあそんでいたら気持ちはいっしょでした。
カンコクの人はカンコクの人なのに日本語をつかえてびっくりしました。さいしょはえいごをしゃべると思ったのにびっくりしました。わたしもちがうくにのことばをおぼえたいです。

かんこくのおねえさんとおにいさんとこうりゅうをしました。
はじめにそうめんながしをしました。竹のそうめんながしは長くて、流れてくるのがはやくてそうめんがとれませんでした。つぎは水でっぽうつくりです。つくり方はしらなかったけど水の中でぶくぶく、ゆったり、ぷゆぷゆいいました。水のかけあいっこしてあそんだことがたのしかったです。かんこくの人たちは日本語がうまかったです。わたしもいろいろな国のことばをおぼえてその国の人とはなしたいです。

武ちゃん語録　出来ない理由よ、さようなら　　やってみようよ、こんにちは

夏タマ・ちびっ子夏タマ２０１１

今年の夏タマ・ちびっ子夏タマは佐賀市の金立教育キャンプ場で開催。
テーマは「生きるチカラ」「感じるチカラ」「行動するチカラ」。テントを自力で立てることから始まり、星の観察。伝説の山、金立登山。食事つくり（火おこしから食べるまで）。沢登り。
世界の国々の人達との交流とそれぞれ専門のおかしらに学びながら８月８日から11日の３泊４日（ちびっ子夏タマは８日から10日の２泊３日）の日々を過ごしました。
初めての経験に戸惑う子。出番ですと得意分野で張り切る子。思いはそれぞれですが、泣いたり笑ったり、困ったり、驚いたりしながらみんなと過ごした日々はこの夏だけでなく大人になるための「チカラ」の基になったと確信しています。

参加者の声

◎国際交流

・友達や外国の人と楽しめた。
・世界の文化などいろいろなことを知れた。
・海外に行くキャンプに参加したいな。

◎星の観察

・雨が降って見えなくて残念。
・宇宙の話を聞けておもしろかった。

◎金立登山・沢登り

・坂道がたのしかった。
・危険なところのわくわく感があってよかった。
・沢登りの岩が急だったので怖かった。
・頂上の景色がきれいだった。

◎食事つくり

・家族ともキャンプに行くけど子どもだけで作ったことがないから楽しかった。
・夏タマ丼（秋刀魚の蒲焼丼）を食べたかぁ。
・おやつタイムにアイスクリームやクッキーを作りたかった。

◎ その他

・テントが暑かった。
・おふろに入りたかった。
・友達が４、５人できてよかった。
・来年もまた来る。中学生までずーと来る。

保護者声（参加後の話題と今後の期待）

・星についてのスライド、ネイチャーゲーム、劇などプログラムの体験について詳しく話してくれました。
・金立山の頂上で食べたバナナがおいしかった。
・マイ箸作り大変だったけど上手にできてうれしかった。
・登山はきつかったけど楽しかった。
・雨が降ってきた時、みんなで青いシートを広げ支えて雨を凌いだこと。
・口癖は「中学３年まで参加する。」と言っています。
・ごはんを口にするまでに火を起したり、時間がかかって大変だった。
・４日間ともに過ごした仲間と再会できるような機会をつくって欲しい。
・一生忘れられない素敵な４日間をありがとうございました。

夢の学校をつくる会　７～９月のご協賛者

内田裕二様　櫛田敦子様　小山恭子様

道場通信

和道流
古賀道場

東日本大震災被災地復興支援

二代宗家大塚博紀最高師範喜寿記念
第47回和道流空手道連盟全国大会報告

残暑厳しい８月下旬、第47回目となる和道流空手道連盟全国大会が東京武道館で開催されました。

今年は、３月11日に発生した東日本大震災の被災地復興支援と二代宗家大塚博紀最高師範の喜寿を記念しての大会となりました。会場の至る所に募金箱が設置され、参加者や関係者の善意の気持ちが多く寄せられておりました。

今年、古賀道場からは11名が出場し全国を舞台に日頃の稽古の成果を発揮してきました。大会１日目は組手、形試合ともに予選となり、選手達は次の日の決勝を目指して頑張って試合をしました。例年、古賀道場からは、１名程度が予選を通過するのですが、何と、今年は４名も予選を通過してくれました！！これには古賀道場選手団も大盛り上がりでした。初出場の選手もいるなか、今年も選手たちにとってはいい経験となった和道流全国大会でした。

大会成績

・吉村　洋祐 選手
　一般、大学個人組手の部　５位入賞

・福岡　羊星 選手
　小学５年生男子個人組手の部　５位入賞

・古賀　大喜 選手
　小学４年生男子個人形の部　８位入賞

・坂井　柚輝 選手
　小学３年生男子個人形の部　５位入賞

感謝状をいただきました。

感謝状

古賀大之殿

貴殿は我らが恩師「古賀武夫」亡きあと和道流空手道古賀道場およびその生徒たちの発展に多大な尽力をされました
よってその功績に感謝しここに感謝状を贈呈させていただきます

平成二十三年八月二十日

古賀道場ＯＢ　中溝大介
吉村洋祐
松尾大輔
山下翔一

佐賀を離れて活躍している古賀道場ＯＢの、中溝　大介くん、山下　翔一くん、吉村　洋祐くん、松尾　大輔くんより感謝状を頂きました。思いもかけないことにビックリしつつも、謹んで頂戴いたしました。この４名をはじめ、道場を大切な場所として想ってくれているＯＢ、ＯＧの為にも頑張って道場を発展させて、彼らみたいな卒業生を多く輩出したいと改めて思うのでありました。

和道流古賀道場　幼児・小学1年生クラス入門生募集中！！

古賀道場では、4歳～小学1年生を対象に楽しみながら空手に慣れ親しんでもらう為に、『幼児・小学１年生クラス』を開講しております。小さい頃から武道に親しんで優しい心と、強い身体を養っていきます。

稽古日：毎週　水曜、金曜
　　16:00～16:50
月　謝：月額　3,500円
※入門料、空手衣購入費別途

英語的思考のススメ vol.6

古賀英語道場代表の青柳達也による連載コラムです。
英語教育とグローバル人材教育というテーマについて、
色々な視点から世の中を見つめながらコメントしてきます。

「世界は君を待っている!!」

先日、母校である佐賀大学附属中学校の三年生を対象に講演会をする機会がありました。英語を勉強することについてお話しをしてきました。そこで、一番伝えたかったことは「世界は君を待っている」と言うメッセージでした。

実質、英語は世界の共通語と言われていることは否定出来ない事実です。今まで様々な国々を訪問しましたが、英語圏で無くても英語が話せたらなんとかなるし、どこの空港に行っても、看板やサインは英語で表記されています。これからグローバル社会がどんどん進んでいき、多民族が共存する世界では、まずは英語が必ず必要になります。

英語は言葉というコミュニケーションの道具にすぎませんが、自分の世界や可能性を広げる道具でもあります。英語で知ることができる世界と、日本語で知ることができる世界があると、人生は単純に二倍になります。母語しか知らない自分にはない創造性、感性、視点を学ぶことができます。

英語は道具である以上、誰でもやれば使いこなせるようになるものです。日本では受験科目の一つになっていますが、それ以上のものであるということを子ども達は実感する必要があります。また、今の世の中、日本でもインターネットなどの普及のおかげで、身近に英語がごろごろ転がっていて、他の教科よりも実務的な教科になったと言えます。

それだけ身近なものになっているのですが、未だに、「何で日本人なのに英語を勉強しなくてはならないの?」と疑問に持っている子ども達も少なくはないでしょう。ですが、逆に考えてみると、日本人であることが英語を勉強する必要がない理由にはならないと思います。

世界は繋がっています。日本もその世界の一員です。資源が少ない日本では、食料・エネルギーをはじめ経済全般を外国とやりとりせずには生きていけません。ユニクロで買う洋服にはきっと、"Made in China"と書かれている物が多いはずです。そんな風に世界の国々に頼っている日本人だからこそ、尚更英語を勉強する必要があるのではないでしょうか。他の国々や人々に頼ったり頼られたりして日本人は生活しているのです。人や物や情報が世界中で行き交っているのです。そして、これから高齢化社会が進み日本への移民が増えてきて、外国人は将来の日本を支える、無くてはならない存在になる可能性があるのです。

そんなグローバル社会で、英語を勉強する意味とはなんでしょうか。それは、英語の勉強をするということが目的ではありません。そもそも、英語を学習する本当の意味は英語を「使う」ということであり、英語と言う道具を使って世界の人々と共に何かを学ぶために必要なものなのです。

これから、子ども達が羽ばたいていって世界を歩くということは、日本のことを振り返ることになります。世界に出ることが、日本人であると言う「アイデンティティー」を考える機会を与えてくれます。人のために役立つ日本人として、日本社会だけではなく、世界で活躍しなくてはならないと思います。そこで、忘れてはならないのは「伝統文化」と「世界観」も備えた真の国際人になるということではないでしょうか。

そんな日本人（君）を世界はきっと待っているのです。

10月～1月のお知らせ

●は地球市民の会、♥は古賀道場
★は夢の学校 の行事です

●タイ訪問プログラム　参加者募集中！

タイ東北部の田舎へ。ホームステイや学校訪問など、人々の生き方に触れます。今回は、現地のお母さんや先生達と『みんなが幸せに暮らせる地域をつくること』をテーマに語り合う場もあります。タイの事が知りたい方！訪問を通して自分達の地域のことも考えたい方！子ども達の笑顔に出会い方！一緒に出かけませんか？

日　程：11月19日～26日（若干の変更の可能性有り）
参加費：12万円（海外傷害保険、嗜好品代は除く）
募集人数：４名
※定員になり次第しめ切ります！

●スリランカ訪問プログラム

（3月実施、参加費約23万円を予定）

インド洋に浮かぶ島、スリランカ。奨学金事業を通して、日本とスリランカの交流が深まってきています。猿やリスが行きかう大自然のなかで、ホームステイや学校での文化交流を通して、キラキラ笑顔溢れる子ども達と触れ合い、『世界はひとつ』を感じにいきませんか？日本とは違った世界が、あなたを待っています。

●チャリティーショップ　出店in吉野ケ里　炎まつり

日　程：10月22日（土）・23日（日）

婦人服、子ども服、カバン、靴などなど…
フリーマーケットブースを出します♪
売上は、タイの子ども達の教育環境改善プロジェクトの資金に充てられます。
皆さんのご来店、また、洋服等のご寄付お待ちしております。

♥第32回古賀英語道場　英語劇際

毎年恒例のイベントです
平成23年12月23日
時　間:14:00～
場　所:エスプラッツホール

♥和道流空手道福岡大会

平成23年11月23日
福岡武道館
今年も古賀道場が
福岡で大暴れ！！

★夢の学校＆フレンズ独演会実行委員会主催

三遊亭歌之介独演会
10月15日（土）今年も笑おう！

♥古賀道場新年会

平成24年１月１日　19:00頃から　古賀道場
毎年恒例、道場っ子大集合！！
みんなに会えるのを楽しみに待っています♪

東日本大震災支援事業進行中です！「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」
ホームページで活動をご確認下さい！　http://www.genkiokurou.jp/

スタッフのひとこと

最近何かと話題の「どじょう」

どじょう？って見たことありますか？小さい頃の身近な動物の思い出や最近触れた小動物は？

地球市民の会

大野　博之　どじょう？「どぜう鍋」「柳川」…う～ん、出てくるのは没後のイメージ。生前の姿を最近見たのは佐賀県立美術館にある水槽の郷土の水辺の生き物コーナーでかな。某N氏がドジョウに似ているらしいですが、そうなのですか？良くわからないなぁ…。それぐらいドジョウと縁のない私です。

岩永　清邦　カエルは小さい頃によく触れていました。稲刈り後の田んぼでよく野球をやったり、わらを集めて泥投げをして遊んでいました。その時、必ず田んぼにカエルがいたのでよく印象に残っています。今では、田んぼに行く機会も昔よりは減っていますが、カエルを見ると昔遊んでいたことを思い出します。

藤瀬　伸恵　動物大好き！な私と父のせいでうちではいろんな動物を飼いました。中でも一番手を焼いたのは拾ってきたシマリスちゃん。ゲージから脱走し、部屋を占領、本棚を基地に大暴れ。近づこうもんなら噛みつかれる始末。それでも可愛がっていたのですが、１年ほど経ったある冬の日、丸まって冷たくなったリスちゃんを発見。リスの死を悲しみつつ、山に埋めにいきました。が！後日「あれは冬眠だったかも」というわさが。…！！！！

戸田　玲子　あまり小さな動物とは縁がない人生でした。ただ、大きな動物は好き★上野動物園やネパールの国立公園…象さんやサイを見るとワクワクドキドキします♪気持ち良い季節になってきたので、動物園ピクニックに付き合ってくれる方、大募集です！

江口　恵美　子どもの頃は虫が怖く蜘蛛を見つけては大騒ぎ、蛙に泣く日々でした。それからウン10年…、蜘蛛で笑い、ゴキブリに立ち向かうたくましいおばさんに！
今現在は足の短いお座敷犬に振り回される日々です。

古賀英語道場・空手道場

古賀　大之　これまで生きてきた中で、「どじょう」に特別な思い入れも、思いでもありませんので、小動物で…
最近、触れ合っている小動物といえばやっぱり道場の子ども達でしょうか…。こっちの言うことが中々伝わらずイライラしたり、思いもよらない行動を見せてくれたりと、道場には色んな品種の「小動物」がおります。本当に飽きない毎日です。この、今は未だ「小動物」の道場っ子たちがいつの日か立派な人格者になることを信じて、今日もまた一緒に戯れるのであります。

古賀恵美子　私は子どもの時から家の中で動物を飼ったことがありません。動物と触れ合う機会がなく、未だに犬、猫、鳥、はどちらかと言うと苦手です。ただ離れて見るだけの私です。

古賀　洋子　私は、生まれてからこれまで犬を飼っていなかったことはありません。今も２匹のワン子と一緒にねていますこれからの季節はアンカがわれで「おいで、おいで」の気分なんですが、夏は「トホホ…」です。でも彼女らは容赦なくペッタリとくっついてきてくれます。でも本当に邪気がないんですよねエ。これには完敗です。アーッひとりでゆっくり寝てみた～い！

青柳　達也　幼少の頃から動物は好きで、犬を飼ったりしていました。今も、ヨークシャーテリアの愛犬「ロミオ」がいます。あまり一緒に過ごす時間が少ないですが、可愛がっています。そう言えば、他の動物って飼ったことないですね．．．。

夢の学校をつくる会

吉村　　薫　どじょうは見たことがあるようなないような記憶が…小動物は苦手な私ですが、なぜか小さい頃鳩を飼っていて伝書鳩みたいに戻ってくる鳩が大好きでした。でもイタチに…全滅。悲しい思い出になってしまったけれど今でも鳩をみるとつい鳩の鳴き声を真似して鳩を呼び寄せたり、手のひらでえさをやったり懐かしい思い出に浸っています。

高柳　哲也　子どもの頃の学校帰りに田んぼの水路で見つけたドジョウを追っかけてついつい帰りが遅くなったのを思い出します。それだけ夢中になって時間の過ぎるのをわすれるほど集中する…今でもそんな熱い思いを持ち続けている私です。最近は娘が可愛がってたハムスターの思い出が浮かんできます。ハムスターは脱走が得意で今までの中で一匹だけ見つからないのがいました。それが最近本棚の下から見つかりました。即身成仏になっておられました。娘と一緒に乾いた体を庭先に埋葬して手を合わせました。命をこうして感じるのですね。

山口　則子　小さい頃から大の犬好きだった私。対して大の犬嫌いな母だったので、子どもの頃は犬が飼えませんでした。よく学校帰りに犬をひろって帰って怒られました。大人になり、ペットショップで目があったマルチーズを衝動買いして大ゲンカしました。アレから13年、今では家族で一番の犬好きになった母です。おじいちゃん犬になった今でも『クッキー』は我が家のアイドルです。

地球市民ネットワーク

■北海道地球市民の会
〒061-3214　北海道石狩市花川北4条2-197
会長／阿部功　事務局長／新保知博
TEL・FAX：0133－74－1296

■地球市民の会ふくしま
〒963-8681　福島県郡山市喜久田町卸1丁目120-1
㈱石黒
会長／事務局担当　石黒秀司
TEL：024－959－6426
FAX：024－959－6577

■地球市民の会東京
〒103-0012　東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
会長／有澤正典　事務局長／佐藤敏行
TEL：03－3662－0331
FAX：03－3662－0400
E-Mail：arisawa@nun.co.jp

■地球市民ACTかながわ
〒231-0821　神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長／近田真知子　事務局担当／伊吾田善行
TEL・FAX：045－622－9661
E-Mail：port@tpak.org

■地球市民の会ぎふ
〒501-6241　岐阜県羽島市竹鼻579-1
竹花園内
会長／森幹治　事務局担当／平井八重子
TEL：058－391－5415
FAX：058－391－8600

■地球市民みえの会
〒514-0027　三重県津市大門7-15津センターパレス3F
津市市民活動センター内
会長／伊藤洋之　事務局担当／秋葉幸信
TEL：059－226－5700
FAX：059－224－8911
E-Mail：miemiemiemie21@hotmail.com

■地球市民の会京都
〒605-0873　京都市東山区下島町484
会長／宮川尚子　事務局担当／西田一貴

■神ノ戸有頂天倶楽部
〒657-0045　神戸市灘区下河原通り3丁目4-3
会長／松元隆司　事務局担当／大西陽治

■愛媛地球市民の会
〒799-0712　愛媛県四国中央市土居町
入野859-1
会長／森高康行　事務局担当／丹生谷宗久

■北九州地球市民の会
〒802-0006　福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長／河野一郎　事務局担当／大山研児
TEL：093－521－8181
FAX：093－551－2296

■地球市民の会福岡
〒814-0164　福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
㈱増屋内
会長／増田誠司　事務局担当／西村和寿
TEL：092－801－5888
FAX：092－801－5789

■（特活）コミネット協会
〒861-8039　熊本市長嶺南2丁目5-31
会長／池永憲真　事務局担当／富田、田中
TEL・FAX：096－387－7139

■古賀英語・空手道場
〒840-0822　佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL：0952－25－2295
FAX：0952－26－4922

■夢の学校をつくる会
〒840-0822　佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL：0952－22－6262
FAX：0952－26－4922

ネットワーク・テラ 秋号 VOL.144
発　　行／
認定特定非営利活動法人 地球市民の会
〒840-0822
佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ：http://tpa.nk-i.net
E-mail：office@tpa.nk-i.net
TEL：0952-24-3334
FAX：0952-26-4922
発 行 日／2011年10月15日
発 行 人／佐藤昭二
編 集 人／地球市民の会 事務局
印　　刷／㈱サガプリンティング
再生紙を使用し、環境に優しい水なし印刷で製作しています。